

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	竜門堂グループホーム ことぶき荘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐賀県武雄市山内町
記入者名 (管理者)	小柳喜美子
記入日	平成 21 年 2 月 28 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	自分らしい生活が出来るように、分かりやすい言葉の理念を作っている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝の申し送り時に理念を職員一同で唱和している。また、ホーム内の要所に掲示して、理念の実践に取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	理念や職員のモットーをホーム内に掲示して、御家族や地域の方に目に付くようにして、理解して頂くようにしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ご近所の方にはこちらから挨拶をしたり、話しかけたりしている。通りがかりの方も話かけられ、時には花や野菜をいただくこともある。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	老人会、自治会、行事への参加はできていないが、荘主催の行事へは地区の役員の方を招待してことぶき荘を分かっけて頂くようにしている。また、地元の方へは荘だよりを配布して、交流の糸口になればと努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	いまの所は、荘のことで精一杯で取り組んでいない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価された事柄を真摯に受け止め、ホームだよりの発行、一人で過ごされる為の空間作り、暖かみのある表札など、これまでに受けた評価を参考にし改善に取り組んでいる。	○	今後も評価によって受けたアドバイスなどを参考にして、よりよいホーム作りを目指し改善に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へは地域、御家族、行政、法人より参加が得られ、ホームの現状を理解して頂くよい機会と捉えている。出して頂いた意見を参考に、サービスの向上に生かしている。	○	今後は、推進委員以外の方に参加して頂けるように取り組みたい。特に御家族にお願いするようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	こちらから出向くことはないが、担当者の方には電話による連絡はとっている。担当者の方が来荘されることはある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護や成年後見制度については研修で学んだ。現在までに必要な方と関わったことはない。今後必要な方に適切に対応出来るように今後も学んでいきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で暴力だけが虐待ではないことを学んだ。荘では、入居者様の身体の状況に目を配り、また職員の口調にも注意を払っている。言葉掛けについては感じのよい話方が出来るように話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に教育委員会があり、勉強会や研修などの計画が定期的にたてられており参加している。県外への研修に参加する場合は、法人より研修費用の全額を負担してもらって勉強できる機会もある。ホームヘルパー2級の資格取得や、個人の希望の研修には休みを組むなど配慮している。また、研修参加者より報告があり、全職員で共有している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入っており、研修や勉強会に参加して、いろんな話を聞き参考にしている。近くの施設からの見学、研修の参加の呼びかけもあり参加している。入居者様との関わったケアマネージャーの訪問もあっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人主催のミニバレー大会、2年に1回の職員旅行などがあっている。荘の職員の食事会などには、運営者も参加されて和気藹々と楽しんでいる。管理者は、職員がなんでも話せるような雰囲気作りを心掛けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	タイムカードの確認、職員のレポートなど目を通され、日頃の勤務態度もよく見られている。それによって、職員の異動、昇給、賞与に繋げてあると思う。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前にグループホームに見学に来て頂いたり、また、こちらから出向いてお話を聞くようにし、不安、求められていることを受け止めるよう努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前に、家庭での介護の大変さ、入居に際しての不安を取り除くように、お話を聞いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居ということではなく、家庭に在ながらのサービスがあることを説明している。デイサービス、ショートステイなどを利用し、家庭での介護が困難になられたときに入居を受け付けるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居された際は、安心されるように職員が傍に寄り添うようにして、他の入居者様や、荘の生活に慣れて頂くよう配慮している。御家族に生活歴をよくお聞きし、その沿ったケアを心掛けている。また、入居当初は度々面会に来て頂くようお願いしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ることを奪わないケアを心掛け、励まし、見守り、出来られたときに喜びを共有している。料理、生活の知恵、諺などを教えて頂き、入居者様とよい関係が築けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に荘での生活ぶりをお話し、現在の状況を理解して頂くようにしている。また、不安、不穏時に御家族へ電話をしたり、外出をお願いするなど、御家族の協力を得ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は居室で御家族だけで過ごして頂くようにしたり、会話が少ない御家族には、職員が同席してお話されるように支援している。また、ご本人、御家族それぞれの思いをお聞きしてこれまでの関係を理解するよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを理解し、御家族の協力を得て関係が途切れないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい方、気が合う方、気の合わない方など入居者様の関係を把握し、同テーブルにするなどの配慮をしている。一人で孤立されないようにその時々で位置を替えたり、職員が間に入るように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方には面会に行き、退居された御家族から電話が合ったり、訪問してもらったりとよい関係が築けている。今後もこの関係を大切にしていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様同士の会話や、職員が傍に寄り添ってお話しをするなかで、日頃思われていることや希望などが分かり尊重している。何事も自分だったらと置き換えて、入居者様の意向を把握できるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時本人や御家族、また他のサービスを利用されていた場合は、そこでの情報などから生活歴、暮らし方などの把握に努めている。入居後、日々のお話の中からも把握するようにし、ホームでの参考にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの暮らし方や過ごし方をお聞きし、状況の把握に努めるが、実際には入居され荘での生活ぶりから、その方の心身状態、残された力の把握に努めるようにしている。先入観をもちすぎないよう、職員全員で努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様で希望が言える方には聞いて計画に取り入れている。御家族には面会時に聞くようにしている。計画に御家族の希望を書いて頂いたり、直接電話をかけて聞いたりして、計画に反映できるように努力している。	○	御家族のケア会議への参加を呼びかける。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間を3ヶ月とし見直しをしている。ほとんどの職員が期間内に見直しができている。3ヶ月と期間が短く御家族と担当者のすれ違いなどで、御家族を含めた話し合いが出来ていない。状態変化による見直しは出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録、一日の生活の様子気づきなどを個人の介護日誌に記録している。ケアに関しては、個人のケア記録を作成し記録している。全職員が情報を共有し、計画の実践や見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様、御家族の要望を最優先し、柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	文化祭見学、唱歌を歌う会などことぶき荘から出かけていく支援をしている。民生委員へは荘の行事に呼びかけている。警察、消防とは協力ができているとはいえない。	○	今後、消防へは火災時の対応についての勉強会の講師をお願いする予定である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを受ける支援は現在行っていない。リハビリが必要な方へは、主治医、理学療法士などと連携し支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在必要とされる方はいらっしゃらないので協働していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は地域の方だったり、大野病院を退院した方で主治医は法人の医者で、前からのかかりつけ医であるため適切な医療を受けられている。他の病院の受診を希望されるときは、きちんと対応ができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人の医師が認知症に知見があり、大野病院には精神科の医師が常駐している。相談にのってもらったり、助言ももらっている。必要時は受診できている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に3日訪問看護師が来荘し健康チェックをしている。入居者様の状態を把握してもらっているため、相談しやすく入居者様の異常時などすばやく対応ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者様が入院された場合は、職員がお見舞いに行き病院関係者との情報交換をし、安心して療養されるようにサポートし、退院に向けての身体の状況などの情報をもらい連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の法人の指針を説明しているが、ご本人の気持ちを最優先する取り組みをしている。御家族、医師などよく話し合い、医師の指導の元職員一体となり支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること、出来ないことを見極め御家族に説明し了解を得ている。医師、看護師と24時間の連携体制を整えている。変化に備え職員で検討や準備をし情報を共有している。また職員の連絡体制も整えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅へ戻られるときは、御家族に生活の注意点や介護の工夫などを具体的に説明し、施設、病院へ移られる際は介護連絡表を添付している。また、職員が付き添える場合は口頭による説明をし、入退居によるダメージを少なくするよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
50	<p>〇プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>〇利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>〇日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	<p>〇身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>〇食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>〇本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄が自立されている方以外は、排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握し誘導している。その方に応じた尿取りパットやトレーニングパンツを使い、おむつを使用しないよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居様が入浴をしたいときに入浴をして頂くのが一番だと分かっているが、現在は午後に入浴して頂いている。早く入りたい人、遅めの入浴を好まれる人、それぞれの希望に沿うようにしている。入浴時間も体調に合わせてゆっくり入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中での活動をこころがけているが、夜間の不眠時は無理に休ませず、職員とお話して眠くなるのを待つようにしている。基本は眠たいときに寝て頂くを職員全員が実践している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話の中から、得意なこと好きなことを知り、一人一人に応じたお手伝いをして頂いている。カラオケ、ゲーム、お手玉などのレクリエーション、習字や絵を描いたり意欲的にされ、思うように出来なかったときは、自分で申し出て書き直しをされることもある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いの管理をされている方は2名である。美容代を支払ったり、買い物に行った時など、お店の人の協力を得て自分で支払われるようにしている。迷ったり、分からない時さりげなく支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	荘周辺の散歩をしたり、食材の買い出しに一緒に出かけたりしている。荘の近くにお店がないため、病院の売店に行ったり、入院されておる方の見舞いを希望されるときなど対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族の面会時においてお願いして外出や実家などへ行かれる方もいらっしゃるが、他の利用者さま、御家族の方と出かける機会作りはできていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、ご自分で番号を押せる方は一人でその方は自由にかけている。番号を押せない方へは職員が押して話して頂いている。	○	暑中見舞い、年賀状などを出されるように支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は職員が不用意に仲に入らず、入居者様とゆっくりと過ごされるように居室へ案内したり、お茶などもお出ししている。笑顔でお迎えし、帰られる際は感謝の気持ちで見送っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の悪影響を職員全員が認識し、全員で鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、拘束について日々話し合いケアの工夫をして、身体拘束をしないケアが出来ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの悪影響を職員が認識している。玄関はいつも開放し、荘の出入り口、居室など日中は施錠していない。いつでも出られますよというケアに、職員全員で取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者様を遠目で見守り把握に努めている。居室で過ごされている方には、さりげなく訪室し把握に努め安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、針などの物品は保管場所は決めているが施錠はしていない。徹底して保管するのではなく目を逸らす取り組みをし、針や鈎などを使われる場合は、職員が傍で見守り使っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様一人一人の状態をよく観察し、必要な対策をとっている。転倒、誤薬などの事故発生については、ヒヤリハット報告や事故報告を書くように職員に徹底している。また、法人の安全対策委員会にも参加し、再発防止のための話し合いを職員間でしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練とは言えないが、応急手当や初期対応のマニュアルを折に触れ話し合っている。また、訪問看護師より指導も受け、ほとんどの職員が急変時や応急手当ができる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は入居者様とともにやっている。地域の方へは、現在のことぶき荘の状況を知って頂くように、ことぶき荘便りを配っている。便りを持って行ったとき、地域の方に何かの時はお世話になりますと、少しずつではあるが働きかけをしている。	○	地域の消防団への働きかけを行いたい。また、消防署にお願いし、荘が出来る初期の対応や避難訓練、夜間の一人勤務の際の初期の対応についての勉強会を実施したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居される際や面会時、考えられるリスクについて説明している。その上で残された力を発揮して、自分らしい生活を送って頂くように支援していくこととお話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ご本人の訴え、その日のバイタル、食欲不振、いつもの違いなどから体調の変化や異変を察知出来るようにしている。その日の日勤者はもちろん夜勤者へも口頭で申し送りを行い、介護日誌、バイタルケア記録、申し送りノートへも記録し情報の共有ができ対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人の介護日誌に綴じ、職員全員が用法用量が分かるようにしている。また、薬剤ノートに服薬されている薬を記入し、症状の把握に努めている。誤薬や与薬忘れがないように服薬介助後、二人の職員で間違いがないかチェックしていて、医師の指示通り介助ができています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘によるリスクを職員全員が理解している。排便の状況を把握し野菜をふんだんにとれるような献立にしました、水分も多めに飲んで頂くようお茶の時間や食事時に促している。毎朝のラジオ体操、腹部マッサージなどで自然排便を目指している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを促し、自分で出来る方でも磨き残しがないかを職員が確認し仕上げ磨きをしている。義歯の方は職員で磨きその後自分で磨かれうがいもされている。歯ブラシやコップは天日干しをし清潔を保つようにしました、月に2回はキッチンハイター漬けをし雑菌の繁殖を防いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、卵、豆腐、野菜を使ったバランスのよい献立にし、嚥下の悪い方には一口サイズに切ったり、他の食材に代えたりしている。量もその方に応じた量や注ぎ分けをしている。また、毎食前に嚥下体操を行いむせや誤嚥がないように支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策については母体である大野病院の感染対策マニュアルを実行している。食前、外出後の手洗い、換気、天気の良い日は布団を干している。インフルエンザの予防注射は入居者様、職員全員が接種している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は毎食後ハイター消毒し、まな板は肉魚用と野菜用に分けて使用し消毒も行っている。冷蔵庫内の清掃も行い衛生保持に努めている。食材はなるべく使い切るように工夫し、野菜は地域で出来た新鮮なものを使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の内外に季節の花のプランターをおき、表札は木の温もりのある物にしている。玄関はいつも開放し、だれでも気軽に入れるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所用品、電気製品、浴室など一般の家庭と同じものを使用し家庭的であり、デイルームは畳敷きでゆったりしている。デイルーム内に季節の絵や貼り絵を掲示し、玄関には季節の花を活けて季節感をだしている。日射しはカーテンで工夫し、テレビの音が高すぎる時は職員で配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームには、3人掛用ソファ、安楽椅子、家具調ソファなどを配置している。一人で過ごされる場もあり、入居者様がそれぞれ思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご主人の写真を飾ったり、鏡台を持参されている方はいるが、使い慣れた家具を持参されている方は少ない。カセットを持参され音楽を聴いたり、部屋を片づけたりと自由に過ごされている。	○	入居されるときに家具を持参して頂くようお願いするが、なかなか持ってきて頂けない。今後も馴染みの物の必要性を説明していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の清掃時窓を開放し換気をしている。トイレの臭いが気になるときはEM菌を散布し、臭いや空気の淀みがないよう配慮している。温度調節も入居者様に合わせている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ダイルーム、トイレ、浴室など必要な場所には手摺を設けている。浴室は介護用品を使用し安全面に配慮している。荘内はバリアフリーではなく、段差などがあるが、それが生活リハビリに繋がり身体機能の向上に役立っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室などの表示はせず言葉かけで自然に覚えて頂くようにしている。居室の表札もご自身で書いて頂いている。また、排泄チェック表を活用し排泄の失敗がないよ時間毎の誘導している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダはないが庭が広く、玄関周辺の花の水やり、草むしり、散歩などを楽しまれている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

結婚式場だった所を改修したホームであり、段差や階段などがあるがそれが「生活リハビリ」につながりよい結果をもたらしている。毎日を元気に過ごして頂くようにラジオ体操、毎食前に嚥下体操を実施している。